

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	システム発想型物質科学 リーダー養成学位プロ グラム	申請大学名	大阪府立大学
申請大学長名	奥野 武俊		
プログラム責任者	辻 洋		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体として良いスタートを切ることができている。学長、プログラム責任者、プログラムコーディネーターをはじめ関係者が大いに熱意を持って本プログラムに取り組んでいる。 申請時に予定されていた平成 28 年度の大阪府立大学と大阪市立大学との統合については見通せない状況であるが、本プログラムは両大学の共同実施のもと、申請時の理念、目的に沿って、採択時の留意事項、参考意見も取り入れ、改善を加えてよく整備されている。 懸念されていた「ことづくり」を可能にする教育カリキュラムの内容も企業出身のメンターが深く関わり、よく考えられたものとなっている。 学生は本プログラムの趣旨に沿った目的意識と興味を持ってプログラムに取り組んでおり、高い意欲をもった人材の選抜に成功している。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 本プログラムにおいて養成する人材の目標の1つとして、確固とした物質科学基礎力を有する物質科学の専門分野における研究リーダー、かつ企業での組織力も兼ね備えたリーダーが掲げられているが、専門分野での研究力にこだわりすぎると、従来型の研究者養成に陥ることが懸念される。したがって本プログラムを進めるに当たっては、産業牽引型リーダー育成に特化している本プログラムの長を生かし、「専門分野の基礎への深い理解と他分野をも俯瞰できる力を持ち、産業界に主軸を置いて活躍するリーダーの養成」という観点により重点を置くべきであろう。 本プログラムでは、学生の「ことづくり」のための戦略的システム思考力の修得が鍵であるため、今回の現地視察で見学した演習で見られた「今あるものの改善」程度で終わらせない、学生による革新的なテーマ設定を実現することが重要である。また、真に役立つためには多大な時間と労力を要する特許教育などよりもむしろ、「ことづくり」の理論、発想法、実践についての教育を徹底することが肝要である。 グローバルリーダーの育成という視点が少し弱いように感じられる。国際性の涵養に関するプログラムなど、グローバル教育の内容のさらなる充実が望まれる。 大阪府立大学と大阪市立大学の統合後に新しい専攻を設置することを構想しているが、独立の専攻を立ち上げると、既存の専攻と競争関係になり、広く協力が得られなくなる懸念がある。現在行っているように、両大学の既存の複数の専攻からの参画と強力なサポートのもと、本プログラムに適した学生を受け入れる方がよいのではないか。 学生の獲得について、引き続き努力が必要である。特に大阪市立大学の学生、留学生、社会人学生、他大学出身の学生、女子学生などバランスの取れた学生構成とするためには戦略的な広報と実績がともに重要である。本プログラムの修了生が高い就職率の実績を示すことができれば多くの学生が集まると想定されるが、実績を提示するまで 			

にはまだ時間を要する。したがって、希望するキャリアパスの実現が見込めることを学生たちに認識させるために、企業出身のメンターが学生に対して、キャリアパスや企業人の考え方などについてアドバイスや指導を行う機会を多く設けるとともに、企業の採用担当者へ本プログラムについての広報などを徹底して行うことにより、志望先への 100 パーセント就職の実現を目指して取り組んでいただきたい。

- 本プログラム主導のもと、JACI（公益社団法人新化学技術推進協会）など学外の団体とも連携を取りつつ、本プログラムの学生のみならず、プログラムを受講していない大学院生や学部学生に対しても、大学時代に目的意識を持って学び、自己成長するという意識付けを行い、学生全体の能力、活力の底上げを行ってほしい。